

今季の小学生大会の変更に関わる帯広スケート連盟の考え方や、決定に至るまでの経緯を文書にしました。全ての方や、特にレースが減ってしまい悲しい思いをさせてしまっている小学生スケーターに全部を納得してもらうのは難しいかもしれません。しかし帯広スケート連盟の考え方的一端でもご理解いただけたらと思い、ホームページに掲載しました。

今季の帯広スケート連盟主催の全競技会を「無観客での開催」としました。連盟では昨季最終戦、「中学校新人戦・高校記録会」を中止としてシーズンを終えました。以降新型コロナウイルス感染拡大に伴う様々な状況から、今季どのように競技会を開催するのか、開催しないのかも含めて再三協議してきました。帯広市の施設である明治北海道十勝オーバルも、閉鎖の時期を乗り越えたものの室内の密閉された施設であることには違いなく、大人数でのイベント（スポーツ大会）にも様々な条件が付けられ、特にたくさんの人数が集中する小学生の大会は最大の懸案事項でした。

コロナ禍がいつこうに収まらない状況が続く中、当初連盟では今季の小学生大会の全競技中止も視野に入れて、様々な課題を洗い出し、検討を重ねました。例えば

- ①最大500人以上の参加者が一同に集まる全十勝大会での三密をいかに回避するか。
- ②帯広市の施設利用に義務づけられている、「全入場者の検温・チェックシートの提出」を全十勝大会入場時いかにスムーズに実施するか。

＊例年、全十勝3大会時は備員を配置して入場整理するほど混雑している

- ③オープンスペースの少ないオーバル内で、ソーシャルディスタンス（社会的距離）をいかに確保するか。
- ④シングルトラックレースでの混雑（1組最大8名がレースする）、召集場所での密集をいかに回避するか。
- ⑤レースキャップを使用しない選手の判別法、開閉会式・表彰式の密集回避、場所の選定等

また当初連盟でも、「時間制による学年別の競技会・選手の入れ替え」も検討を重ねました。幾重にもシミュレーションを行い、実際にタイムテーブルも作成してみました。すると

- ①例年の参加者数のままだと競技時間が1日の中で収まらなくなる。
（選手を入れ替える時間の確保、三密回避のためシングルの組数の増加）
- ②選手の入れ替え作業実施の難しさ。

（消毒作業のため、一度全ての人員を退場させる難しさ。兄弟、同じ少年団などの保護者が退場、再入場する難しさ。入退場時の正面入り口の混雑。）

- ③今まで通りの日程に収まらないことによるリンク代等の経費の増大。
などの問題点が想定され、収まらない日程を別日に設定することも現在のオーバルの利用状況（中高大学生の練習時間の確保、競技役員負担増、経費増に伴う参加料の値上げ等）

から鑑みて現実的ではない状況でした。

また帯広スケート連盟は、非営利の競技団体であり50数名の会員のほとんどが平日別の仕事を持っているボランティア団体であります。会合等も仕事が終わってからの平日の夜に実施し、競技会のための作業の時間も仕事の合間をぬって行います。また連盟最大の課題として「連盟会員の高齢化」が避けられず、コロナ禍による健康被害を心配する声も上がっていました。その活動にはおのずと限界があり、連盟会員個人の犠牲の上に競技会を開催するわけにはいきませんでした。

しかしたった1年・1シーズンだけであったとしても、小学生の全競技会が中止となれば、スケート離れの加速は避けられないと考えました。連盟の活動の大きな柱の一つが、十勝スピードスケートの普及拡大です。小学生スケーターの減少は、中高生スケーターの減少に直結し、それは「スケート王国十勝」の崩壊をも意味するもので、絶対に避けなければならない問題です。どんな形であっても小学生の競技会を開催することが、帯広スケート連盟の使命である、とさえ考え更に検討を積み重ねました。

小学生大会開催の形を模索する中で、ある小学校の先生（少年団指導者）の声に大きく励まされました。それは「もっと子どもを信用しましょう。小学生は大人が思っている以上にきちんとできますよ。レースの準備も、靴紐しばりもできるようになります。」でした。無観客保護者なしだとコーチ指導者の負担は増します。また親の不在時の事故・怪我に対する責任論には何ら反論の余地はなく、連盟としてその指摘に対する返答は、「大会の中止」という選択になってしまいます。

十勝のスケート界のために、寒い中保護者と一緒になって一生懸命練習している未来のスケーターのために、何とか競技会中止だけは避けなければなりません。コロナ禍における感染拡大防止の観点、帯広スケート連盟の活動限界の観点、から苦渋の選択として今季の「小学生チャレンジカップ」の開催を選択せざるを得ませんでした。

今後、各少年団の指導者、コーチ、先生、保護者の方々には、競技会当日の作業の手伝い（消毒、チェックシート受付、入場時の検温、その他作業）の協力をお願いすることもあると思います。一生懸命練習に頑張っている選手のためにも周りで支える大人たちが一致団結してコロナ禍のシーズンを乗り越えていきましょう。そのことこそが、今シーズンの十勝スケーターの最大のモチベーションなのではないでしょうか。

帯広スケート連盟事務局長 勝見 了